

使ってもらって学ぶフィールド志向システムデザイン2018

Field Oriented System Design Learning by Users' Feedback 2018

1016127 武信雄平 Yuhei Takenobu

1 プロジェクトの概要

本プロジェクトでは現場（フィールド）から課題・要望を受け、それらを解決するためのシステム開発を行ってきた。実際に現場で使ってもらうシステム開発を目的としているため、短期間での開発とフィードバックのサイクルを繰り返す開発スタイルを実践してきた。

このプロジェクトでは、石別をフィールドに設定し、活動を行ってきた。

1.1 プロジェクトの体制

本プロジェクトは学部3年6名、Teaching Assistant 6名、教員4名によって構成されている。

1.2 開発の進め方

プロジェクト開始時に担当教員により導入されたコミュニケーションツールである Slack を活用し、開発を行った。タスク管理についても、Slack に専用のチャンネルを作り、タスク管理ツールの代わりとして使用した。本プロジェクトはアジャイル開発手法の一つであるスクラムを用いることを前提で活動した。理由は、グループ内のコミュニケーションを密に行いながら素早くアプリケーションを開発し、プロジェクトの概要で述べた目的を達成するためである。

2 課題設定とプロセス

2.1 背景

石別とは、北海道北斗市に位置する三ツ石地区と当別地区を合わせた地区の総称であり、人口は977人である(2018年4月時点) [1]。また、トラピスト修道院が観光拠点であり、ゴールデンウィーク期間中には1日あたり約1000人を超える観光客が訪れる。観光事業として、自転車レンタル事業、並木道ライトアップや茂別音頭の普及など地域を活性化する取り組みが行われている [2]。

2.2 フィールドワーク

本プロジェクトでは、石別でのフィールドワークを計3回行った。1度目のフィールドワークは、5月16日にメンバー全員とTAや教員で、いくつかのグループに分かれて行った。ここでは、観光客の視点から見た石別の魅力や問題点を調べることを目的とした。また、フィールドワーク中は、石別地区に住んでいたデザイナーの上田桂さんが作成した手描きマップを使用した。後日、グループごとにそれぞれが感じた魅力や問題点を共有し、石別でどのような取り組みを行うか話し合った。



図1 フィールドワーク中の様子

2度目のフィールドワークは、6月23日にメンバー2名で、1度目のフィールドワークで定休日であった場所を実際に訪れるために行なった。その中で、実際に訪れた店舗についての詳細な情報や石別に関する情報を得ることができた。

3度目のフィールドワークは、11月10日にメンバー3名と教員で、アプリ内で使用する写真や観光スポットを増やすために行なった。また、他のフィールドワークに比べて時間が少なかったため、移動には車を利用した。多くの写真や新たなスポットを探索することができた。

2.3 ヒアリング

6月6日に北斗市役所で、北斗市地方創生担当の方々との会議を行った。本プロジェクトからは、昨年度の活動の進捗報告と今後の活動予定についての説明を行った。北

斗市地方創生担当の方々からは、北斗市や石別の現状における問題として、「石別」自体の知名度が低く、また石別の魅力を十分に発信できていないということを教えていただいた。後日、プロジェクト内で話し合いを行った結果、トラピスト修道院以外の地域の魅力を発信することが最も石別に貢献できることだという結論に至った。そのために、会議で得た情報を基に石別の魅力を発信する観光アプリを作成することになった。

2.4 課題

石別の人口は 2005 年には 1200 人を超えていたが、2018 年 4 月時点で 977 人となっており [1]、人口減少が深刻化している。また、石別への移住者を増やしたいと北斗市は考えているが、石別自体の認知度が低く、まずは認知度の向上を図る必要がある。また、トラピスト修道院に多くの観光客が訪れる一方で、トラピスト修道院以外の観光スポットを訪れる観光客は少なく、石別の他のスポットの魅力があまり知られていない。例えば、美しい石別の景色を一望できる「丸山展望台」や、雄大な自然を感じることができる「赤とんぼ橋」である。

2.5 目的

石別が問題を解決するために観光事業に力を入れていることから、本プロジェクトは、石別での観光を ICT を用いて支援することを活動目標とする。ICT を用いることで、より効果的にトラピスト修道院以外の石別の魅力を多くの人に知ってもらうことができると考える。また、石別の住民の方々にも協力していただき、住民しか知らないような情報を提供していただいたり、住民視点の意見をいただく。そうして、新しい情報や意見を取り入れることで、より観光を支援することのできるプロダクトの作成を目指す。

3 課題解決のプロセスとその結果

3.1 中間発表会

7 月 13 日に行われた中間発表会では、プレゼンテーションペイで発表を行った。発表の方法は、プロジェクターで、プロジェクトでの活動をスライド、アプリの説明を検討中のアプリのモックアップを用いて発表を行った。来場者には、発表技術と発表内容について評価して

いただいた。発表技術に関しては、「前を見てもっと抑揚をつけて話すべき」、「スライドを初めて見る人の視点に立って改善すべき」といった意見を多くいただいた。

3.2 HAKODATE アカデミックリンク 2018

11 月 10 日に HAKODATE アカデミックリンク 2018 (以下、アカデミックリンクとする。)が開催された [3]。アカデミックリンクでは、開発しているアプリのデモを用いてポスターセッション形式で発表を行った。アカデミックリンクでは、一般来場者や他分野専攻の学生や教員が多かったこともあり、様々な視点から、本プロジェクトや開発中のアプリに関する評価をいただいた。発表中にいただいた意見として、「現状では、ユーザに情報を与えているだけで、手描きマップにしかできないようなユーザ体験がないように感じられる」、「現状の UI だと、ユーザが次の動作を想像しにくい」などがあり、今後もアプリの改善を行なっていく必要があることを再認識した。

3.3 成果発表会

12 月 7 日に行われた成果発表会では、中間発表とは異なりモールドで発表を行った。発表の方法は中間発表と変わらず、プロジェクトでの活動をスライド、アプリの説明を開発中のアプリを用いて発表を行った。成果発表会においても発表技術と発表内容について評価していただいた。発表技術に関しては、中間発表会から改善できた部分とそうでない部分があり、「スライドのイラストやデモアプリの部分は好印象であった」、「発表スペースの特性を意識して、もう少し練習を積む必要がある」といった意見をいただいた。



図 2 成果発表会の発表の様子

3.4 enPiT BizSysD 北海道・東北グループ合同発表会

12月15日に行われたenPiT BizSysD 北海道・東北グループ合同発表会（以下、合同発表会とする。）に参加した。合同発表会では、アカデミックリンクと同様にアプリのデモを用いてポスターセッション形式で発表を行った。発表中にいただいた意見として、「余った時間を利用して散策してもらおうことを狙いにするのであれば、コースだけでなくトラピストの周辺スポットを紹介する機能があるといい」、「景色を推すのであれば、もっと四季をアピールすべき。そのほうが魅力が伝わるし、逆に桜が枯れててがっかりするようなことも少なくなる」など、アプリの改善に関する意見を多くいただいた。

また、学生、教員、企業の方々が、新規性、有益性、論理性についてそれぞれ最も優れたと思ったチームに投票を行った。その結果から、総合点と各評価が最も高いチームがそれぞれ表彰され、本プロジェクトは論理性の観点から、ベストプレゼン賞を受賞した。

3.5 開発システムの説明

現在開発中のアプリは、トラピスト修道院を起点として、周辺のスポットへ足を運んでもらうことを目的とした石別散策支援アプリである。このアプリは、石別の散策コースやスポットを、魅力的な写真や、興味を引くような紹介文とともに見ることができる。また、2.2節で説明した石別の手描きマップをこのアプリに使用している。手描きマップ上にはユーザの現在地が表示されるため、手描きマップを見ながら散策を楽しむこともできる。また、ターゲットは石別に観光に訪れている最中であり、石別についてあまり詳しくない人である。

4 今後の展望

4.1 開発システムの改善

本プロジェクトとしては大きく2つの取り組みを行う。1つ目は、機能の追加である。現在、手描き地図上に現在地を表示することができていないため、石別での成果発表会までに実装を行う予定である。また、開発したアプリを石別で実際に使い、現状のアプリの優れた点や使いにくい点を確認することで、今後のアプリの改善に繋がると考える。2つ目は、UIの改善である。本プロジェクトは最終的にアプリのリリースを目指している。そのた

め、iOSのリリース要件を満たしたUIの調整を今後行う必要がある。また、成果発表会で「ユーザの使いやすさを意識した方が良い」という意見をいただいた。それを受け、縦横両方の向きで画面を利用できるようにするなどの改善を検討している。

4.2 課外成果発表会への参加

本プロジェクトは、2月18日に秋葉原で行われる課外発表会に参加する予定である。本プロジェクトが約1年間行ってきた活動をポスターセッション形式で発表する。この発表会には、石別のことを知らない人が多く来場すると思われるため、アカデミックリンクとは異なる視点のコメントを多くいただくことができると考えている。

4.3 石別地区での成果発表会

2月中旬に行われる石別地区創生会議で、これまでの活動や作成した石別散策について発表を行う予定である。そこでは、北斗市の方々や住民からアプリについての意見をいただく予定である。この発表でいただいたフィードバックを基に、アプリを改善していく予定である。また、住民の方々にアプリに利用する写真やスポットの紹介文に入れるべき内容などの情報提供をお願いする予定である。それらを利用して、アプリのコンテンツの内容を増やしていく予定である。

5 プロジェクトの成果

本プロジェクトは、石別での観光をICTを用いて支援することを目指して活動を行ってきた。しかし現在は、石別での観光支援を目標としたアプリの開発を行っている段階であり、その目標を達成することはできなかった。しかし、今後石別の住民の方々に今年度の活動報告を行い、開発したアプリを使っていただくこと、住民の方々に協力していただきながら、石別での観光をより支援できるようなアプリの改善を行うことで、それらを達成できると考えている。

参考文献

- [1] 北斗市の統計 [人口および世帯数-国勢調査結果-]
- 北斗市. 北斗市.
<https://www.city.hokuto.hokkaido.jp/docs/1113.html>
(2019/01/07 アクセス)
- [2] 石別地区創生会議.
<https://ishibetu.wixsite.com/souseikaigi>
(2019/01/07 アクセス)
- [3] HAKODATE アカデミックリンク.
<https://www.cc-hakodate.jp/academiclinkb>
(2019/01/07 アクセス)